

1 【出題の意図と対策】

文学的文章(小説)の読解で、ここでは、桂望美の『総選挙ホテル』が題材です。経営不振のホテルにやってきた社長は、総選挙で管理職、従業員を決めることを提案します。その選挙でホール課の課長に選ばれた黒田が中心に描かれている場面です。小説を読むときには、登場人物の立場に立ち、その状況や心情に寄り添いながら読むことが大切です。そのうえで、それぞれの設問について、何が問われているのか、文章の中のどの部分が根拠となっているのかを確認しながら、解答していきましょう。

【解答】

- ① d ぐち e こわ(れ)
- ② 正当
- ③ 例 いつも見えていてくれて声をかけてくれる(18字)
- ④ エ 補い合ってそれぞれの持ち場で精一杯頑張れば、きっと
- ⑤ 例 完璧になれる(31字)
- ⑥ イ

【解説】

- ② ポイント《言葉の意味を正しく理解できるかどうか》
ここでの「言い訳」は「自分自身の言動を正当化する」という意味で使われています。
- ③ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
直前の「そういうの」が指す内容を探すと、「貧乏くじを引いちやう時ってあるじゃないですか」、「そういう時、課長はいっつも見てくれる」、「ご苦労さんとか言ってくれ」とあるのが見つかります。この内容を字数内でまとめます。「ご苦労さんとか言ってくれ」を「声をかけてくれる」「ねぎらってくれる」などと言い換えると字数内で収まりやすくなります。
- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、「上司の行動の根本にしようと思った」が誤り。大学生の黒田は「職場にこんな先輩がいたらいいだろうな」と思いながら見えています。イは、「仲間に強く言えない」、「がっかりした」が、ウは、「社会には仲間を統率するリーダー的存在が必要だ」が、それぞれ本文から読み取れない内容です。エは、「こんな先輩がいたらいいだろうな」と思っていた兄貴風の人が、実は元々の性格ではなく「必死で努力していた」ことに「ショックを受けた」という本文の内容に合っています。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
最後の黒田の発言に着目します。「集まって強くなればいい」、「一人ひとりにダメなところがあっても、補い合えば……:きつと完璧になれるさ。それぞれの持ち場で精一杯頑張れば」、「それが働くってことなんだよな」とあることから、この部分の内容を、指定語句「完璧」「持ち場」を使って字数内でまとめましょう。
- ⑥ ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》
アは、小松がクビになるかどうかについて、本文には書かれていません。イは、上司の照れ隠しを真に受けてほめ言葉を重ねようとする小松を制する黒田の様子の説明として合っています。ウとエは、本文からは読み取れない内容です。

2 【出題の意図と対策】

説明的文章(論説文)の読解で、題材は、竹内薫『東大卒エリート』の広く深い学び方』です。日本語と英語の違いを文化的な背景から述べたうえで、英語と国語の融合学習のメリットへと話を発展させています。論説文を読むときには、例に挙げられている事柄と筆者の意見のつながりをとらえ、接続語によって文章がどのように展開しているかを考えながら、説明していること、そのことからのどのような意見を述べているかを読み取ることが大切です。

【解答】

- ① b 視覚 f 似(た)
- ② エ
- ③ ウ
- ④ 例 言葉にしくなくとも相手のメッセージを読み取る、独特の
- ⑤ X 一対一で対応していない
- ⑥ Y 国語力が洗練される

【解説】

- ② ポイント《助動詞を正しく識別できるかどうか》
「らしい」は、推定の助動詞のほか、形容詞の一部の場合があります。aとエは、「どうやら認識されているらしい」などと「うやら」を補えるので、推定の意味の助動詞です。アとウは、「くとしてふさわしい」という意味の形容詞の一部、イは「かわいらしい」という形容詞の一部です。
- ③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
ローコンテクスト文化の象徴といえるのは、移民が集まっている国、アメリカです。「相手に何かを伝えたいと思ったら、曖昧さや誤解が生じない」ことが重要で、「はっきりと明確な言葉」で伝えなければいけません。この内容に合っているのはウです。アは、「身振り手振りを交えて」が、イは、「紋切り型のありきたりな表現になりがちである」が、ともに本文に書かれていない内容です。エは「発祥」ではなく「象徴」の誤りで、「それぞれの……」以下も本文には書かれていない内容です。
- ④ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
「二方で、」で始まる段落に、ハイコンテクスト文化である日本について、「長い時代のなかで、培われた共通認識があり、言葉にしくなくとも相手のメッセージを読み取る能力が身につく」というからこそ、「独特のコミュニケーションスタイルが発展してきた」ことが書かれています。この部分を字数内でまとめます。
- ⑤ ポイント《筆者の主張を正しく理解できるかどうか》
Xは、「日本語のニュアンスに気づくことができ」る理由に当たる内容が入ります。eの直後に「なぜなら、英単語や英語のフレーズは、必ずしも日本語と一対一で対応していないから」と理由が書かれています。この部分から、適当な部分を抜き出します。Yは、融合学習の効果に当たる内容が入ります。最後から二つ目の段落に「言語のニュアンスに気づける」という意味で、「国語力が洗練される」と融合学習の効果
- ⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、「漢字が入っている文章は速く読める」という特徴がある」という本文の内容に反しています。イは、(中略)の前後に書かれた本文の内容に合っています。ウは、「使われるシチュエーションが全く異なる」が本文に書かれていない内容です。エは、本文の冒頭部分に、「普通の文章は「漢字は右脳部位」、ひらがなやカタカナは左脳部位で認識する」と仮定できるのに対し、「マンガとそのセリフや説明文の文字は、漢字と同様に脳の異なる部位で認識されている」とあります。マンガは、絵と文字部分をあわせて、漢字と同様に右脳で読んでいるからすいすい読めるということ。選択肢は、文字部分を左脳で、絵の部分を右脳で読んでいるとされているので誤りです。

3 【出題の意図と対策】

和歌、俳句を含む文章で、馬場あき子の『歌と花 わが心の風景』から「吉野の桜」について述べた部分が題材です。吉野の桜をうたった後醍醐天皇、大僧正・行尊、西行の和歌から、吉野の桜について考えています。吉野と桜のつながり、それぞれの人はどういう思いを詠んだのかを、文章内容を理解して読み取っていきましょう。俳句や和歌の知識も必要です。和歌や俳句が含まれていることから難解なものに感じられるかもしれませんが、文章との関わりを理解の助けとし、筆者の考えを押さえ、設問に答えていきましょう。

【解答】

- ① X 多くの歌人にうたわれた花の聖地
- Y 詩的な悲しみ
- Z 豊潤な美しさ

- ② エ
- ③ ア
- ④ 知り合いがない(8字)

【解説】

① ポイント 《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
 Xは、「正徹の頃には」とあるので「正徹」を手掛かりに第一段落を見ると、「吉野が多くの人々にうたわれた花の聖地であったからだ」と吉野と桜の関わりが書かれています。次のYは、「義経と静」とあるのでそのことばがある第二段落を見ると、「義経や静、また後醍醐天皇や南朝の人々の運命を心の底に思うことよって、その後の吉野の春はいっそう詩的な悲しみを深めてきた」と書かれています。Zは「西行」のaとbの和歌のあとに、「桜の文化史はここで一気に豊潤な美しさを附与された」と書かれています。

② ポイント 《和歌の内容を正しく理解できるかどうか》
 aの和歌は、「吉野山の梢の桜を見た日から、私の心は、身に添わなくなりましたことだよ。」という意味です。桜の花に心を奪われ落ち着かない心情をうたっています。bの和歌は、「吉野山からこのまま出ずにいよう(修行をしよう)」と私を待っているのだろうか。という意味で、都で待つ親しい人々の思いを想像してうたっています。アとウは、bの歌の解釈が合っています。イは「決意」とまでは読み取れません。エは、和歌の意味として合っています。

③ ポイント 《本文の内容を正しく理解できるかどうか》
 「適当でないもの」を選ぶ点に注意しましょう。アは、「密教風の太鼓が力強いうねりのあるリズムを響かせ」とあるので「かき消されるほど」が誤りです。

④ ポイント 《和歌の内容を正しくまとめられるかどうか》
 空欄の部分には、「花よりほかに知る人もなし」を訳したことばが入ります。「お前のほかに」のだからに合うように、「知り合いはいない」「知っている人はいない」「誰も知らない」などとまとめます。

4 【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。今回のように資料と話し合いの融合問題では、話し合いのテーマや各自の意見の読み取りはもちろんです。資料のどこに着目しながら話し合いが進められているのかを正確に読み取ることが大切です。

【解答】

- ① イ
- ② エ
- ③ ウ・エ・オ(完答・順不同)
- ④ Y

例 イ(Y・Zで完答)
 (なぜなら)期日、時間に間に合わせるように仕事をすることが求められると思うからだ。試合やテストの日から逆算してやるべきことを考え実行していけばこつがつかめると思う。(76字)

【解説】

① ポイント 《否定の接頭語がわかるかどうか》
 「常識」とイ「公式」は「非」をつけて「くではない」という意味を表現します。それぞれ否定の接頭語をつけると、アは「未成年」、ウは「無意味」、エは「不義理」です。

② ポイント 《資料を論理的に読み取ることができかどうか》
 「絵麻さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意して考えましょう。アは、「大人は大変そうだ」に「そう思わない」と回答した人は7・3%、「大人はいつも疲れている」に「そう思わない」と回答した人は13・6%ですから、「半数以下」が誤りです。イは、「憧れる大人がいる」に「そう思う」と回答した人は43・1%、「早く大人になりたい」に「そう思う」と回答した人は34・6%ですから、「多い」ではなく「少ない」の誤りです。ウは、「憧れる大人がいる」に「そう思わない」と答えた人は56・9%、「早く大人になりたい」と思わない人は59・9%ですから、こちらも「多い」ではなく「少ない」の誤りです。エは、「大人は大変そうだ」に「そう思う」と回答した人は91・1%、「大人は楽しそうだ」に「そう思う」と回答した人は74・2%ですから資料の読み取りとして合っています。この資料からは、中学生が、大人は大変そうで忙しそうだけれど楽しそうだと思える人が多いことが読み取れます。

③ ポイント 《発言の特徴を理解できるかどうか》
 アは、琴音さんが資料の内容について説明しているのは琴音さんの二回目、四回目の発言ですが、他の人に発言を促してはいないので誤りです。イは、絵麻さんの三回目の発言にあたりますが、メンバーにどう思うかを尋ねてはいないので誤りです。ウは、知樹さんは三回目の発言で、そこまでの話の流れとは別の項目をあげて、伯父の例をもとに意見を述べ、それについて幸大さんが同意していることに合っています。エは、幸大さんが一回目の発言で問いを投げかけたことがきっかけで【資料II】に話し合いが移っていますので、合っています。オは、琴音さんの三回目、幸大さんの三回目の発言内容に合っています。

④ ポイント 《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》
 自分が伸ばしたいと思う能力を選び、その方法を考えます。アであれば、理由として自分に任せられた仕事を最後までやり遂げることで信用が高まるから、能力を高める方法として学校生活の中で学級委員などの責任ある仕事を積極的に引き受ける、などが考えられます。ほかに、ウは変化の激しい時代の中で生きていくため、エは接客などをやっていくうえで不可欠な能力だから、などの理由が考えられます。